

第20回夢まちづくり協議会総会を開催！

令和6年5月26日

新型コロナが令和5年5月8日に5類に移行され、定期総会を協議会推進員40名中、委任を含む38名が参加し、5月26日に開催しました。

[令和6年度 協議会の主な事業計画について]

1. まちづくり協議会の広報

夢まちづくりニュースは、年2回程度発行します。

2. まちづくり事業基金の確保

自費負担分は、事業該当町内会にご協力を頂き実施します。

3. 他地区との交流

防災まちづくりに取り組んでいる、当地区と同様な協議会との交流を計画します。

[令和6年度 各部の主な事業計画について]

基本的には前年度計画で実施した内容をフォローし、見直して計画します。

① いえ・みち事業部

- 危険な崖地などの避難路は、地域の指摘箇所の改善を検討します。
- 行止り箇所は、町内会や地権者の協力を得て対策を検討します。
- 狭隘道路対策は、事前協議を活用し事業者に対応を依頼します。

② 災害対策合同本部

- 協議会設置設備の定期点検と、備蓄用資器材の整備を行います。
- 防災広場は定期的に清掃し、町内会に利活用の促進依頼をします。
- 「イザ！カエルキャラバン！」は自主防災組織と合同で行います。
- 会館準拠点の開設訓練を行い、また安否確認訓練も行います。
- 防災拠点と連携が取れるよう、防災拠点会議に参加します。



会長 村上氏の挨拶



定期総会の参加者

自主防災組織と災害対策合同本部のコラボ

東久保町の防災拠点には稲荷台小学校です。また防災準拠点として東久保町会館、池ノ上公園を指定しています。今回、準拠点開設訓練の一環として、上記のコラボ(コラボレーション：共働)を計画しました。

事前に、平日の午後2時に大地震が起きた時、「東久保町会館で必要なもの、池ノ上公園で必要なもの」を記入してもらいました。

また当日は、「在宅避難」と「地域防災拠点」のビデオを視聴しました。実際に大地震に見舞われた場合、自宅が住める状況であれば、在宅避難をお願いします。(在宅避難はストレスが少ない、プライバシーが守られる、等のメリットがあります。)

情報班 機動班

3月23日(土) 10:00~11:30 出席者 18名

- 話し合いから気づいた点、感想など
 - ・日頃から近所づきあいを大切にしています。

- ・大地震が起きたら、自分の家族の安全を確認した後、向こう三軒両隣を見回ることにします。
- ・土曜日は仕事があり出席できないことがわかり、次回、日曜日に開催、計画を検討したい。

救護班 生活班

4月27日(土) 10:00~12:00 出席者 13名

- 話し合いから気づいた点、感想など
 - ・最近、池ノ上公園での炊き出しは出来ないのでは、と思います。

- ・年配者や障害者等(一人で体を動かさない人)の、避難者向けの対応を検討してほしい。
- ・以前にプロフェッショナル登録制度(看護師、消防関連人、大型運転手等)があったと思うが、町内会の人々の活用を、再度検討してください。

○今後も、自主防災組織とのコラボ、「在宅避難」「地域防災拠点」ビデオの視聴を継続します。(稲田 記)

建物新築 事前協議の状況について

○令和3~5年度の受付状況(軒)について

| 種別 | エリア | 東朋会 | 東台会 | 東睦会 | 合計 |
|----------|-----|-----|-----|-----|----|
| a. 令和3年度 | | 2 | 5 | 2 | 9 |
| b. 令和4年度 | | 4 | 5 | 8 | 17 |
| c. 令和5年度 | | 2 | 4 | 2 | 8 |

建物新築の事前協議は、令和3年(2021年)から、横浜市の地域まちづくり推進条例第11条第5項で、協議することにしました。これは建物が着工してからでは、防災対策に必要な施設の整備依頼が間に合わないためです。そのため市に建築確認申請を提出する前に、地域の防災に関し協議し協力して頂くよう、横浜市のHP「防災まちづくり」に記載しています。皆さま方には趣旨をご理解頂き、事業者に事前協議が必要なことをお伝え下さるようお願いいたします。(志鳥 記)

横浜市防災減災研修事例発表会



3月16日(土)横浜市とフジテレビ共同開催の「防災・減災推進研修(事例発表会)」が横浜市保土ヶ谷公会堂で行われました。

発表の団体は、当東久保町夢まちづくり協議会「災害対策合同本部」の他に、栄区から笠間町内会、瀬谷区からマークスプリングス自治会の3団体が発表しました。当日の参加人数は約150名で、東久保町からは、町内会長3名を含め計6名の方が応援に来て頂きました。

発表の中で、特に栄区の笠間町内会の「災害時要援護者の避難支援訓練」では、車椅子利用者の方々を避難場所への案内を実施している点が参考になりました。

第2部では、フジテレビアナウンサー(木村拓哉氏)の司会進行で『地域の防災』を、様々な立場で防災に携わっているパネリスト7名が参加し、ディスカッション(討論)方式で行われました。



(安藤 記)

避難所開設(第一広場)、生活訓練実施しました! 東睦会

令和6年3月31日(日)第一防災広場に於いて、総勢41名(子供含む)の方々が参加し「地域防災生活訓練」を行いました。当日は天候に恵まれ、先ず集まった人達で生活空間の確保として、ブルーシートを使った簡易テント組み立てました。

次に被災生活の訓練として2か所にカマドを設置し、大きなお釜でご飯を炊きカレーを作りました。また照明の確保訓練として、サラダ油を使用した簡易照明、等も作りました。

ペットボトルを使っての生活用水としての簡易浄水器も作りました。

これからも、毎年今頃「地域防災生活訓練」を行っていきます。

災害は、いつ来るかわかりません。日頃からの訓練が大変重要となります。

(橋本 記)



1. 「イザ！カエルキャラバン！」とは？

「イザ！カエルキャラバン！」とは、NPO 法人プラス・アーツが監修する、次世代を担う子どもや若いファミリーを対象にした、楽しみながら防災を学べるイベントです。1995 年の阪神・淡路大震災、2011 年の東日本大震災で被災された方々の声をもとに、開発・改良された「防災体験プログラム」と、美術家・藤浩志氏が考案したおもちゃ交換会「かえっこバザール」を組み合わせています。子どもたちが遊びの延長で、防災の知識を身に付けられる活動です。

2. どんな「防災体験プログラム」がある？

地域に合わせて様々なプログラムを組み合わせることができます。一例は以下の通りです。

- ①水消火器での的当てゲーム：火を模した的を使用して、楽しく消火器の使い方を学びます。
- ②ジャッキアップゲーム：下敷きになってしまったカエル人形を、ジャッキを使って助け出します。
- ③毛布で担架タイムトライアル：身近にある毛布を担架にして、ケガ人に見立てたカエル人形を搬送します。



太田小学校で行われた際の様子

3. 子どもたちは集まるの？

いらなくなったおもちゃが家にありませんか？そんな遊ばなくなったおもちゃを持ち寄ると、ポイントが溜まり、違うおもちゃに交換できます。また、防災体験プログラムに参加するとポイントがもらえ、おもちゃをゲットできる仕組みなので、子どもたちはおもちゃを目当てに集まります。そして、おもちゃ欲しさに何度も防災体験プログラムに参加することで、自然と防災の知識が身に付きます。

イザ！カエルキャラバン！をきっかけに、皆さまの防災力をさらに向上させましよう！

お問合せ：都市整備局 防災まちづくり推進課 西田・佐藤（045-671-3664）

『夢やさい』の販売は 中止しています。

新型コロナによる販売不振や仕入れ車両の確保、運転手の不足、また役員の高齢化等によって事業運営が難しくなり販売を中止しています。このため事業の自己資金については、事業該当町内会のご協力を得て行いますのでお願いします。

夢まちづくり協議会 事業部

【編集委員】 村上秀・志鳥・稲田・橋本・安藤

【問い合わせ先】 ☆東久保町夢まちづくり協議会

〒220-0062 横浜市西区東久保町 29-11（会館）